

平成 27 年度

東京薬科大学 新入教員のためのミニ教育ワークショップ

報告書



平成 27 年 4 月

FD実施委員会

平成 26 年度 東京薬科大学 新入教員のためのミニ教育ワークショップ

実施日：平成 27 年 4 月 4 日(土)、11 日(土) 会場：教育 5 号館 2 階

ディレクター：笹津学長
オブザーバー：太田副学長
主催：全学 F D 実施委員会
事務局：学務部学務課

出席者：笹津学長、太田副学長
タスクフォース：大野尚仁、新槇幸彦、杉浦宗敏、稲葉二郎、三浦典子
学務課：今井、葛西、酒井

プログラム

4 月 4 日 (土曜日)

- 13:30 受付開始 (教育 5 号館 2 階 5201 教室)
- 14:00 開会式・アンケート記入・オリエンテーション (教育とは)
- 14:30 作業説明 (1)
- 14:40 SGD 1 自己紹介 (お絵かき)、KJ 法 (SGD 5202.5203 教室)
KJ 法のテーマ：「大学 (学部) 教育の問題点」
- 16:30 発表、合同討議、コーヒースタイル
- 17:00 作業説明 (2)
- 17:30 SGD 2 目標設定：ニーズ、GIO ならびに SBOs
テーマ 1：入学者の学力差を解消するためのプログラム (1 年次)
テーマ 2：問題解決力醸成のためのプログラム (1 年次)
- 18:30 発表 (模造紙)、一日目の評価アンケート
- 19:00 会食 (弁当) (DR 棟 1 階会議室)

4 月 11 日 (土曜日)

- 9:30 作業説明 (3)
- 10:00 SGD 3 方略立案 (模造紙)
- 11:30 発表、合同討議
- 12:00 写真撮影、昼食 (DR 棟 3 階会議室)
- 13:00 作業説明
- 13:30 SGD 4 評価立案 (模造紙)、評価表とルーブリック作成
- 15:30 発表、合同討議
- 16:00 コーヒースタイル
- 16:15 作業説明 (4)
- 16:30 SGD 5 対応策の検討
- 17:30 発表、総合討論 (学長、副学長参加)
- 18:00 総評・アンケート記入

平成27年度新入教員のためのミニ教育ワークショップ グループ

平成27年4月4日(土)・11日(土)

Aグループ			Bグループ		
薬	准教授	カタノ シュウイチロウ 片野 修一郎	薬	教授	マスヤマ コウイチ 益山 光一
薬	准教授	カツヤマ ソウ 勝山 壮	薬	講師	シロサカ ヨシユキ 白坂 善之
薬	講師	タカハシ ツトム 高橋 勉	薬	講師	オオヤマ カツヒロ 大山 勝宏
薬	講師	ミズノ コウジ 水野 晃治	薬	助教	ミヤケ カツノリ 三宅 克典 ※
生	助教	ヨシマツ ヤスヒロ 吉松 康裕	薬	助教	タカタ タクミ 高田 匠
薬	助手	ヤマグチ サトル 山口 悟	薬	助手	ヤノ エミ 矢野 絵美
薬	助手	ヤマモト カズヒロ 山本 法央 ※			

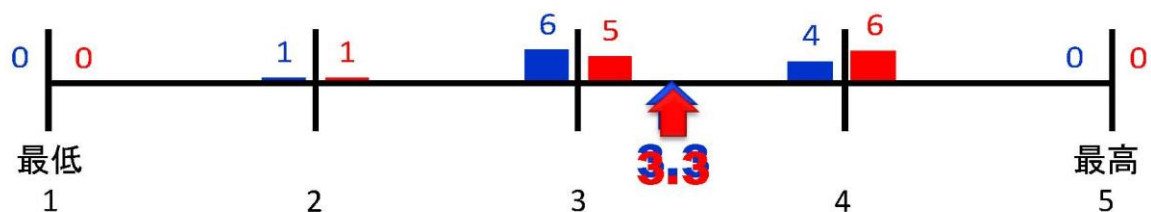
※ 11日(土)のみ参加

ワークショップの様子

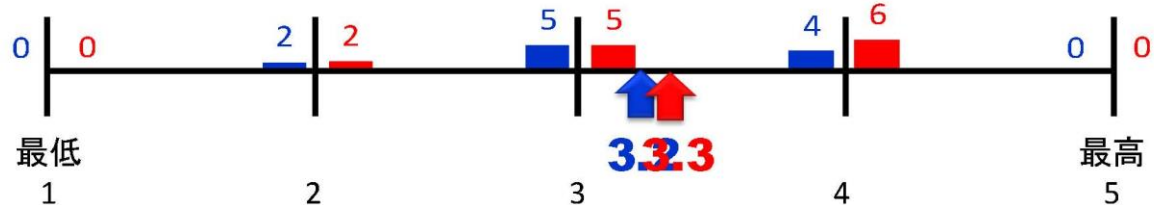


第1日目・第2日目の評価（青…1日目11名、赤…2日目13名）

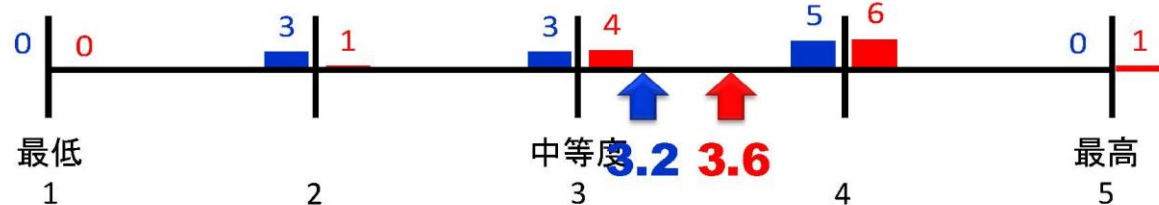
今日のワークショップの流れにスムーズに入り込めましたか。



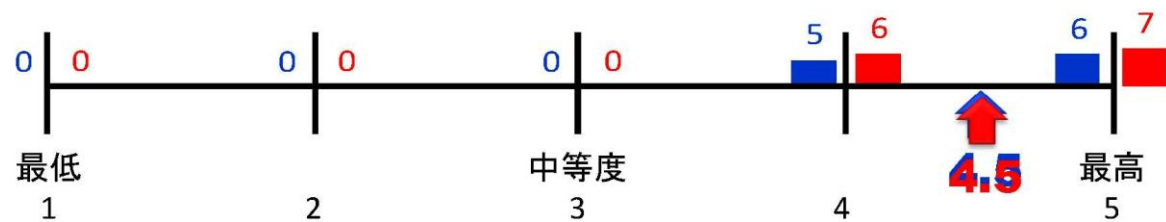
今日、あなたは討議にどの程度参加しましたか。



今日の内容は、あなたのニーズにマッチしましたか。



今日の世話人の仕事はよかったですか。



【よく理解できたこと】

- ・ KJ 法
- ・ 目標設定の重要性
- ・ GIO SBO の重要性
- ・ 教授錯覚が教育に与える影響
- ・ GIO SBOs 作成について理解が深まったとともに、難しさも改めて痛感した
- ・ 具体的な目標計画の設定が重要であること
- ・ 評価するための測定方法の仕組み
- ・ KJ 法からの二次元展開という方法
- ・ パフォーマンス評価について
- ・ 評価項目の設定の重要性

【あまり理解できなかったこと】

- ・ GIO SBO の設定の難しさを実感した
- ・ プログラムの作成法とその要素
- ・ GIO, SBOs の考え方についてももっと理解しなければならないと思った
- ・ 研究以外の討議にあまりついていけなかった
- ・ ルーブリックの作成が難しいと感じた
- ・ 評価のタイミングと方法
- ・ ルーブリック・パフォーマンスの設定

【その他の意見・感想】

- ・ 大学の入学制度やカリキュラムを予めある程度理解して参加する方が良かった
- ・ 薬学教育を行うためのヒントを得ることができました
- ・ 全体を通じて楽しくできました
- ・ もう少し話し合いの時間があると良かったです
- ・ いろんな分野の先生がいらっしやって刺激になった
- ・ 重要でありながら、評価できない（しにくい）SBO も存在するということがよくわかった
- ・ WS 事前に全資料を渡してほしかった

教育評価アンケート

T TRUE
(正) F FALSE
(誤)

プレ ポスト

☒ T	☐ F	1. 学習目標を明確にすることは、教育評価の妥当性を高める。	13	13
T	☒ F	2. 総括的評価とは、学習者の知識・技能・態度を総合した評価のことである。	2	7
T	☒ F	3. 形成的評価とは、最新の知識を学習者がどの程度知っているかを評価することである。	10	11
T	☒ F	4. チェックリストは知識を評価する際に適している。	9	5
T	☒ F	5. 観察記録は、実習中に観察したことを学習者が記録したものである。	8	11
T	☒ F	6. 同僚評価は、特に知識(認知領域)の評価に効果的である。	9	8
☒ T	F	7. 技能(精神運動領域)の評価に評定尺度は有用である。	11	10
☒ T	F	8. 学習者の能力向上の程度は、カリキュラムや教授法の評価の参考となる。	13	13
☒ T	F	9. 測定すべき行動領域と評価法とが合致した評価は妥当性が高い。	11	11
☒ T	F	10. 評価者を複数にすることで、技能の評価における信頼性を向上させることができる。	13	13

総合アンケート

プレ ポスト

賛成 どちらとも
いえない 反対

5	11	1. カリキュラムとは、学科別時間配分表のことである。			☐
9	9	2. 教育目標は、教授者が何をなすべきかを明確に規定したものである。			☐
10	9	3. 学則で教育理念が示されていれば、教育の不十分な部分を容易に見見できる。			☐
8	12	4. 教育目標を設定しておかなくても、正しい評価は可能である。			☐
8	9	5. 知識を獲得するには、講義を聴くのが最良の方法である。			☐
5	8	6. 問題解決の教育には、指導者が問題解決の仕方を示さなくては学習者が問題解決能力を修得することはできない。			☐
0	0	7. 実習に先立って、十分に知識を教えることは必須である。			☐
8	9	8. 教授者が厳しければ厳しいほど、学習者はやる気を出す。			☐
2	6	9. 試験をしなくても、教育評価は可能である。	☐		
0	2	10. 教育の改善を促進させるには、まず改善にとってのプラス因子を増やす方が肝要である。			☐

おわりに

このワークショップは、本学に着任され間もない先生方に、本学の教員としての志を共有していただきたいとの思いから始められたものであり、教育の基本であるカリキュラムプランニングについてグループワーク等を通じて学んでいただいた。年度初めの多忙な土曜日にもかかわらず、13名の先生方に参加していただき、充実した時間を共有することができ、目的を達することができた。また、学長、副学長が参加し、学内の様々な教室・研究室の教員が集まり、学内全体を知る上でも有意義な時間とすることができた。

グループ討議のテーマとして、「入学者の学力差を解消するためのプログラム（1年次）」と「問題解決力醸成のためのプログラム（1年次）」の2つを設定した。いずれも、本学で実際に懸案となっている内容であり、討議は活発に行われ、素晴らしいカリキュラムが立案された。前者については、「学力差を解消」と設定したが、能力別クラスの中で、「低学力者のためのプログラム」とすれば、議論の方向性を具体的に絞り込むことができたであろう。次年度以降のテーマ設定に生かしたい。後者については、ディプロマポリシーに直結するテーマであり、新コアカリの中心的な考え方であるOBEの一端を含むものとして設定した。討議の中で、6年間の目標と初年次の目標が示され、繰り返しラセン型に学力を醸成する考えが盛り込まれた。複数年にわたるカリキュラム（コース）を立案する時間があれば、学年ごとの到達目標を示すことができ、評価のセッションで作成したルーブリック評価表の意義をさらに明確にすることができたであろう。

対応策の検討では、「学力差」「意欲」「プロフェッショナルリズム」がキーワードとなった。新コアカリにおいて「薬剤師として求められる基本的な資質」が設定されているが、いずれのキーワードも、基本的な資質に合致したものである。学生が知識を問題解決レベルで習得し、技能を自動化できるまで高め、態度をプロフェッショナルなレベルに到達させることが基本的な資質で求められている水準であるので、能動的・参加型プログラムを充実させることが重要であろう。各グループで提案された対応策はいずれも意義深いものであるので、それらの実施に向けて積極的に参加していただくことを期待したい。

本ワークショップでは、個別の報告書の提出を求めなかった。ワークショップは非常にタイトなスケジュールで進行するので、実施中には、じっくり振り返ることができない。ワークショップにおける報告書の意義は、終了後に個別に振り返りの時間を設けるためである。その点を省略したのは、大変残念なことであるが、学生指導等で大変多忙な状況であるので、本報告書の内容をじっくりお読みいただくことで、個別の報告書を省略させていただいた。このことが、ワークショップの効果の減少とならないことを願っている。

本学薬学部は長期実務実習のためのワークショップ、指導薬剤師のためのアドバンストワークショップ、全学合同のFDワークショップ、学生のミニワークショップなど様々なワークショップを実施しており、これらを独自に企画、立案、実施するためのスタッフ、ファシリテーターが在職している。この組織を活用し、今後も様々な形のワークショップが広がっていくことを期待している。今回ご参加の先生方にはファシリテーターとしても参加していただけることをお待ちしております。

文責 タスクフォース 大野尚仁